

だいせん 市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



平成26年度四ツ屋保育園入園式

0歳児から3歳児まで22人が、保護者と一緒に入園式に臨み、園長先生のお話や在園児のお遊戯を見つめていました。

平成26年度予算を可決

一般会計の総額は472億円余り、特別会計、企業会計を合わせた予算額は691億6千万円

主な内容

CONTENTS

- 第1回定例会概要 2~3
- 9人の議員が一般質問 4~8
- 議決結果・賛否一覧表 9
- 委員会審査のあらまし 10~11
- 市民の声、議会のうごき 12~13
- 市政懇談会案内、編集後記 14

第1回定例会

第1回定例会は2月24日から3月14日まで19日間の会期で行われました。本会議1日目は栗林市長による施政方針演説のあと、条例案18件、単行案10件、平成26年度当初予算など予算案32件の計60件が上程されました。本会議2日目、3日目には計9議員による一般質問、本会議4日目は2議員による平成26年度当初予算に対する質疑を行ったあと、平成25年度補正予算など予算案3件が追加提案され、上程議案のほか陳情4件が各常任委員会に付託されました。本会議5日目には、委員会審査が行われたあとと本会議を再開、平成26年度一般会計当初予算など予算案9件について反対討論、一般会計当初予算について賛成討論が行われた結果、議案全63件を原案どおり可決し閉会しました。主な内容は次のとおりです。

条例案

▽大仙市特別職の職員で非常勤のものの報酬、費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について（全会一致で可決）

消防団員の処遇改善を図るため、報酬を各階級においてそれぞれ年額3千円～6千円引き上げ3万3千円～8万6千円とするほか、出場手当を4百円引き上げて4千4百円とするものです。

▽大仙市公益通報条例の制定について（全会一致で可決）

市の公益を害する事実を早

期に是正し、市政運営の公正性の確保と透明性の向上に資することを目的に制定するものです。

▽大仙市市民活動交流拠点センター条例の制定について（全会一致で可決）

市民生活の向上及び活力にぎわい創出のため、大曲厚生医療センター（現大曲仙北組合総合病院）に隣接する複合商業棟に市民活動交流拠点センターを設置するもので、これに伴い、「ペアーレ大仙」に設置されていた同センターを廃止するものです。

▽大仙市子ども条例の制定に

ついて（全会一致で可決）

市の責務や保護者の役割などを明確にし、地域全体で子どもを健やかに育むために関する基本的な事項を定め、子どもの権利が尊重される社会の実現を目的に制定するものです。

補正予算

▽平成25年度大仙市一般会計補正予算（第7号）（全会一致で可決）

歳入歳出予算の総額に2億3,889万円を追加し、補正後の総額を500億8,110万7千円とするもので、これにより2年連続で500億を超す予算額となりました。

主なものとしては、財政調整基金積立金として1億5,053万円、生活バス路線運行維持費補助金として7,663万円などのほか、事業費の確定によるものや各施設の燃料費及び電気代の高騰による補正となっております。

▽平成25年度大仙市一般会計補正予算（第8号）（全会一致で可決）

定例会4日目に追加提案さ

れたもので、歳入歳出の総額に2億2,553万6千円を追加し、これにより補正後の総額は503億664万3千円となります。

主なものとしては、国の補正予算に伴う通学路の拡幅等の経費2,400万円や大曲駅前市街地再開発組合に対する補助金1億6,853万円、Jアラートによる緊急情報伝達手段の整備経費1,795万円のほか、市道の除排雪経費1億5,000万円などとなっております。

当初予算

【平成26年度当初予算】（賛成多数で可決）

平成26年度大仙市一般会計当初予算の総額は前年比1億7,502万3千円（0.4%）減の472億2,733万3千円で、合併後最大となった前年と同規模の大型予算となりました。また、国民健康保険事業特別会計など18特別会計の総額は198億5,651万2千円、市立病院事業会計など2企業会計の総額は20億7,907万1千円でこれらを

合わせた大仙市全体では691億6,354万6千円となります。

【2議員が予算質疑】

3月6日本会議4日目に平成26年度当初予算に対する予算質疑が行われ、2議員が質問に立ちました。主な質疑は次のとおりです。

▽金谷道男議員（大地の会）



◇空き店舗の活用について

Q. 空き店舗を活用した新規開店支援事業について、現在の経済活動に合わせ、保険業や税理士、IT関連などにも拡大すべきではないか。

A. 現行では生活関連サービス業に限定していたが、今後は拡大する方向で取り組みたい。また、商店街団体の申請を必要とせず、助成対象道路を指定する制度とすることで、対象地域の拡大も図られる予定である。

◇次期総合計画の策定について

Q. 市民や各団体等から要望を聞き取り、支所職員と市民や企業・各団体等とワーキングチームを作り、多面的な形で計画策定を進めるべきと考えるが、そうした予算措置がなされているか。

A. 当初予算において、総合計画審議委員会の設置と市民意識調査の実施経費を計上しているが、各地域協議会にも参画していただき幅広い議論にしたい。さらに毎年実施している「市民による市政評価」なども検討材料とするほか、パブリックコメントを実施するなど情報の共有を図りたいと考えている。市民参画のあり方については4月以降に具体的な検討をして参りたい。

※金谷議員は、これらの他、除雪情報提供システムについて、共通商品券発行支援事業についての質疑も行いました。

▽武田隆議員（大地の会）

◇除雪対策費の当初予算計上について



Q. 除雪対策費は9月補正で計上するのではなく当初予算に計上すべきではないか。

A. 当市では、前シーズンの課題を検証した上で、長期気象予報を踏まえて実効性のある予算とするため、9月補正予算計上としている。今後市民の皆さまの要望や除雪業者の皆さまのご意見を反映させた、きめ細かな除雪対策予算とするため、9月補正予算計上をお願いしたい。

◇決算審査における意見書の平成26年度当初予算への反映について

Q. 平成24年度決算を認定する際、各分科会からの意見書を付しているが、平成26年度当初予算は、この意見書の内容を検討し反映させたものになっているか。

A. 当初予算については、決算審査における各分科会の意見や監査委員からの指摘事項を十分に反映させたものとしている。各事務事業について

は決算審査意見を踏まえ「選択と集中」のもと事務効果の検証を行い、真に必要な事業を必要最小限の予算で実施することを基本として予算編成をしている。

【反対討論】

▽佐藤文字議員（日本共産党）

平成26年度大仙市簡易水道事業特別会計や公共下水道事業特別会計など予算案6件には4月1日消費増税に伴う使用料引き上げが行われている。依然として厳しい雇用環境や社会保障の削減による負担増など市民生活の悪化が予想される中、生活に欠かせない水道及び下水道の使用料引き上げが含まれるこれらの予算案に反対する。

【反対討論】

▽藤田和久議員（日本共産党）

平成26年度一般会計当初予算ほか予算案3件には4月1日からの消費増税が各種使用料、利用料等に転嫁されているほか、権限移譲が進み業務量が増えている中、職員の削減が進んでいる。防災対策の増額など認められる部分もあるが、公共料金の増税値上げ

や職員削減は認められないことからこれら予算案に反対する。

【賛成討論】

▽秩父博樹議員（公明党）

平成26年度一般会計当初予算は、4月1日からの消費税引き上げや農業政策の大転換など国も大きな転換期を迎えている中、財政運営に努力され、合併後最大となった昨年度と同規模程度の積極型予算となっており、重要施策である子育て支援、教育の推進、

農業振興、経済・雇用対策、防災対策などを推進する予算となっており同予算案に賛成する。



▲平成26年度で解体される南街区

平成26年度一般会計・特別会計予算 (単位:千円)

会計名	予算額	前年度費	
一般会計	47,227,333	△0.4%	
特別会計	国民健康保険事業	10,066,228	△1.0%
	後期高齢者医療	865,582	0.5%
	土地区画整理事業	1,764,810	△22.9%
	学校給食事業	1,957,419	111.3%
	奨学資金	33,452	△0.7%
	簡易水道事業	1,255,471	16.4%
	公共下水道事業	1,711,111	△1.7%
	特定環境保全公共下水道事業	750,328	△1.5%
	特定地域生活排水処理事業	24,791	△3.2%
	農業集落排水事業	1,288,559	3.6%
	老人デイサービス事業	51,232	2.8%
	スキー場事業	74,407	6.7%
	財産区（6地区）	13,122	△29.5%
	市立大曲病院事業	1,005,768	△9.3%
上水道事業	1,073,933	6.8%	
計	69,163,546	0.6%	



新政会
渡邊秀俊 議員

Q 除雪オペレーターの確保、豪雪地の建物の普及、空き家対策は

A 雪対策総合計画で検討中

質問 除雪オペレーターの確保、豪雪地の建物の普及、空き家対策は。

市長 持続可能な除雪体制構築のため、除排雪作業の複数年契約や夏場の道路維持作業の一括発注により機械の維持管理やオペレーターの雇用を支援したい。

除雪、排雪の必要のない消雪パイプと流雪溝をセットで整備する方法については、雪対策の計画の中で十分に協議していく。26年度は要望が増えているので、消融雪施設整備の補助金上限を100万円から200万円に、電気料負担も料金の上昇に合わせて対応していく。

雪対策の中に大仙市方式と呼ばれる政策を盛り込んで、克雪住宅の普及と雪下ろし作業中の事故防止に努める。26年度は住宅リフォーム支援事業の中に、住宅の屋根の有効な除雪対策をした場合を、補助対象に加える。

空き家対策は、個人の財産に関わることから慎重な手続きを要する。市民からの相談に対しては即時対応を行うと共に、できるだけ迅速な措

置を講ずる。

質問 鳥獣被害の防止に果たす猟友会への対応は。

市長 国の法律改正に伴い現在の猟友会員を中心に「鳥獣被害対策実施隊」を設置する。

これにより、毎年の狩猟者登録の際の狩猟税負担の半減、被害対策上の事故への公務災害補償の適用、猟銃所持許可の更新時の技能講習免除などが適用され、猟友会組織の維持、後継者の確保・育成に寄与すると考

える。

今回、有害鳥獣の捕獲出動時の手当てとして一人4千円、警戒活動や実技講習会の経費として1猟友会当たり18万円の予算を計上している。

ツキノワグマ、カラス、ウソ等の有害鳥獣の捕獲に対応できる体制を構築していく。

※渡邊議員は、これらの他、地域公共交通のあり方について、補助金、負担金の見直しについて、給食センターにおける地産地消の推進についての質問も行いました。

一般質問



公明党
秩父博樹 議員

Q 再生可能エネルギーの導入について、今後の展望は

A 太陽光パネルに限らず再生可能エネルギーの普及に有効な支援策を検討

質問 再生可能エネルギーの拡大を進めることは、三重の意味で重要。

一つ目は、脱原子力依存を進め、地産エネルギー源を活用していくというエネルギー安全保障の観点からの重要性。二つ目は、地球温暖化の防止。三つ目は、将来世代に環境的持続可能性を手渡すために、現代世代が行う環境投資としての意味。再生可能エネルギーの導入について、展望を伺う。

各種関係団体とも連絡を密にし、さらに分かり易い制度を目指して周知を徹底する。

質問 新築物件についても補助対象とする考えはあるのか伺う。

市長 今後の課題の一つと捉え、太陽光パネルに限らず再生可能エネルギーの普及に有効な支援策を検討する。制度設計のために時間をいただきたい。

消防団の処遇改善について

質問 消防団の処遇改善を求めているが、今回の当初予算に盛り込まれており、まずは一歩前進を嬉しく思う。しかし、交付税単価にはあと一歩届いておらず、もう一押しをお願いしたい。年額報酬、出動手当において、交付税単価に沿うよう、更なる処遇改善を検討していただきたいと思うが。

市長 今後は、県内、全国の市町村の動向を注視し、段階的な引き上げを視野に入れながら、消防団員の更なる処遇改善に努める。



だいせんの会
古谷武美 議員

Q 観光資源としての文化財認定について

A 大仙市として、貴重な建物を後世に残すためには文化財指定も有効な手立てと認識

質問 由緒ある古民家を文化財と認定するための調査は可能か、また何時ごろまで可能か伺う。

市長 文化財保護の今日的テーマは、議員指摘のとおり観光資源としての役割も大きいことなどから、市における文化財の保護は観光や地域との連携が重要と認識している。角間川地区は近世、近代と雄物川の舟運で繁栄した場所であり、その面影を後世に残すために整備した川港親水公園や浜蔵などは、角間川の歴史を語る上で大切なものである。市としては、貴重な建物は所有管理者が大事に保護し後世に残していただきたいと考えており、その為には文化財指定も有効な手立ての一つと認識している。しかし、建築物の場合、文化財指定を受けると現状変更いわずゆる改築に条件が付されることや、解体することが困難になるなど大きな負担が伴うことになる。全国的には貴重な建物であっても文化財指定を受けずに柔軟にリフォームや解体が行われる事例が多いのも実情である。角間川の本郷家に隣接する旧家の建物についても街並みと言う観点から所有者のご理解と同意をいただ

き概要調査が必要と考える。その結果に基づき詳細調査や保存と活用などについて費用も含めて多面的に考え判断が必要と考える。概要調査は同意後3か月程度、詳細調査では費用の予算補正含め約半年が必要。

質問 26年度も「大仙市ニコニコ商品券」を販売する考えがあるか伺う。

市長 商品券販売に対する支援は、経済状況と時期を見て適切に実施するものと考えている。

4月以降の消費税増税に伴う地域経済に与える具体的な影響が明らかになった時点で総合的に判断したい。

質問 大仙市でも地元日本酒で乾杯推進条例の制定を考えてはいかがか。

市長 この条例制定の目的は、地元日本酒の消費拡大による経済活性化はもとより市外への情報発信、市外からの来訪者への話題提供や観光案内の一助と考えられる。市としては地元日本酒での乾杯を励行しているが、お酒は個人の嗜好性が高いので市として日本酒に特化した条例制定は進めにくいと考える。

一般質問



大地の会
石塚 柏 議員

Q 学校や橋梁の老朽化は、次期総合計画でどう扱うのか

A インフラ施設の総合管理計画を策定し対策を講ずる

質問 最近、学校のつり天井の落下事故、中央自動車道のトンネルの天井板の崩落、首都高速道路の3兆円に上る補修費の発表があり、我が国のインフラに不安を感じる。当市では28年度から10年間の総合計画が始まるが次期総合計画に、この問題をどう反映させるのか。

市長 一般的に橋梁の耐用年数は50年と考えられており、当市で行なった橋梁の点検では、436橋の内、今年度末で50年を超える橋梁は27橋で、次期総合計画の終期の平成37年度は188橋になり、合計215橋が耐用年数を越える。また、平成37年度に供用が困難になる橋梁は28橋になる。庁舎や学校、市営住宅、観光施設、体育館など約350施設の内、今後10年間で約100施設、30年間で約300施設について何らかの修繕や改修が必要になると想定している。

質問 橋梁や建築物の老朽化の専門技術者の養成と長寿命化対策の新技术の導入に積極的な体制を作るべきではないか。

市長 今年度をメンテナンス元年と捉え、職員を研修に積極的に参加させ、中長期課題として維持管理技術者の養成に取り組みたい。

館の橋の陥没事故は、いつ復旧する見込みか

質問 市で1、2番の交通量の多い館の橋で、陥没事故が起き交通に支障を与えたが、開通の見とおしは何時か。

市長 現在、国と県の橋梁アドバイザーから助言をいただきながら、対策工法の検討を進めており、もう少し時間を頂きたい。開通の見とおしがハッキリ次第早急に住民にお知らせしたい。



館の橋の交通規制状況



館の橋の陥没箇所



大地の会 大野忠夫 議員

Q 新組合病院開業は万全か

A 意見要望は適宜事業に

反映させてきた

質問 平成9年組合病院建築検討委員会設置を契機に幾多の難問を突破し進められてきた組合病院が5月1日開院の予定と伺っている。市民や議会をはじめ多くの機関との協議を通じて出された要望や意見が多くあった。開院に向けて残された課題や意見があるのか伺う。

市長 本事業への意見や要望は県厚生連、組合病院、市との3者懇談会で協議を重ね適宜事業に反映させてきた。

要望は、①病院職員の接遇。②来院者駐車場料金の見直し。③今後の病院と市の協力体制。④3者懇談会2回目を新病院開院前に行う等である。

今後の課題は①医師、看護師等医療従事者、先進医療機器の継続確保。②圏域の人々が安心して暮らせる医療環境を提供できるよう、県及び関係機関への継続要望。③組合病院に対する行政としての支援の継続。④休診中の眼科、消化器系統医師の充

実等であり、特別交付税の活用と県を通じて地域医療の充実、また大学、厚生連への協力及び組合病院側にも要望している。

ハートフルネットの見解は

質問 4月から県医師会運営の「あきたハートフル(心から)ネット」

システム事業が展開される。圏域市民の医療の充実と患者負担の軽減を視野に新組合病院も参加予定と思うが見解を伺う。

市長 この事業は施設・設備・人材など医療機関の有効活用とあわせて「医療連携」の実行を高めるための有効対策と認識している。県厚生連や大曲仙北医師会に有効活用に向けた検討を働きかけていく。患者側も事業の利用で手術後転院する場合や在宅医療など複数の医療機関にまたがる情報が共有できるため、きめ細かい医療の継続や適切な治療が可能と考える。

一般質問



大地の会 武田 隆 議員

Q 農業の大転換、改編に

どのように対応するのか

A 「農業再生会議」を立ち上げ、市内の農業者の意見を広く聞く

質問 国がTPP交渉をにらみ打ち出した水田農業政策の大幅な改革は、農業を基幹産業とする大仙市にとって大問題である。今後の市の農業ビジョンと農業政策について、①大規模化に拍車をかけていくため、どのような対策・方法で臨むのか。②米作を中心とした中・小規模・個人農家をいかに守っていくのか。③複合作物として、どのような作目を選択・推奨し、農家所得の向上を図るのか。④「植物工場」を企業と連携し、稼働させ、葉物野菜の生産販売、雇用の確保を目指す考え。⑤園芸作物栽培拡大のため、他地域にも温室栽培ができる施設整備を促進すべき。⑥農業の大転換・大幅な改編に対応し、政策や対策を考えるためにも、「農業政策プロジェクト」・「農業再生会議」を立ち上げ農業振興計画を改編してはどうか。

それぞれの態様に応じた支援を、関係機関との連携強化により取り組んでいく。

②市単独事業「小規模集落元気な地域づくり基盤整備事業」などに取り組み経費の軽減を図り、安定的経営に結びつくよう支援する。

③大豆の作付拡大が難しい地域にあつては、加工用米や飼料用米、ホールクroppサイレージでの対応が望ましいと考える。

④初期投資や運営コストが高いなど、克服すべき課題が多いことから情報の収集に努める。

⑤もみ殻ボイラーは3法人3台、ヒートポンプでは12法人16台が稼働、今後も各品目に対応した設備導入を推進する。

⑥仮称「農業再生会議」を組織し、平成28年度からの新たな農業振興計画の土台作りとする。

市長 ①法人化にあたっては、集落や地域の農地を集積し、米を主体とした土地利用型で取り組む集落型法人、加工部門など6次産業化に取り組む法人など多様化しているが、

※武田議員は、この他、特別養護老人ホームの増設と大都市からの入所者の受入についての質問も行いました。



日本共産党 議員
佐藤文子

Q 消費税増税に伴う
公経済負担は

A 一般会計で1億
5,960万円と試算

質問 消費税が増税されれば公共工事費や水光熱費、事務機器、物品など、自治体の歳出にかかる消費税の負担（公経済負担）も当然増えることになり、マイナスの影響は相当に大きいものと考えます。

消費税増税に伴う公経済負担はどれくらいになるものか。一般・特別・企業会計にわたる試算をお知らせいただきたい。

市長 一般会計では、一般財源ベースで1億5,960万円、国保会計で230万円、後期高齢者医療会計で30万円、老人デイサービス会計で30万円、スキー場会計で140万円、市立大曲病院では670万円と試算している。

乗り合いタクシーの多様な
利用を求めることについて

質問 乗り合いタクシーは、住民要求に沿って改善が図られているが、高齢者世帯の増加など、さらなる利便性の高い乗り合いタクシーへの改善を求める要望が出されている。①公共交通空白地域を対象とし

ている関係で、鉄道やバス路線に近い方は対象になっていないが、ぜひ通してほしい。②運行コースが中心市街地への利用となっているが、南部から南部への通院にも利用できるようにしてほしい。③近所の診療所やスーパーへの利用も可能にしてほしい。

このような多様な利用と運行を可能にするよう改善を求めるが所見を伺う。

副市長 路線バスや一般のタクシーなど既存の民間事業とのすみ分けを明確にし、両方を共存させるといった現在の制度スキームでは困難であると考えます。しかし、利用者ニーズの多様化に伴い再編していく必要があると認識しており、交通対策の視点のみならず、高齢者対策、通学対策など、他の分野で実施している各施策と連携した事業展開が不可欠と考える。平成28年度からの次期計画（地域公共交通計画）の策定過程で、市の体制も含め検討していきたい。

※佐藤文子議員は、この他、学校給食費の無料化についての質問も行いました。

一般質問



大地の会 議員
佐藤育男

Q 放課後児童クラブの施設
整備と対象学年の拡大を

A 関係機関と連携しながら施設整備を行い、
対象学年は小学生高学年まで拡大する

質問 放課後児童クラブにおいて、利用状況と今後の受入施設の整備について伺う。

市長 利用状況は、平成26年4月現在の受入定員720人に対して、利用予定者は700人で、一部で受入定員を上回って受け入れる施設もあるが、児童の生活環境に配慮し受け入れを行っている。今後の施設整備については、小学校の余裕教室や公民館、民間委託など関係機関と連携しながら施設整備を行う。

質問 放課後児童クラブの受入対象学年を小学生高学年まで拡大できないか伺う。

市長 受入対象については、平成26年度から定員に余裕のある児童クラブで、高学年の利用を開始するための申し込みを開始する。

子供のスポーツ活動について

質問 スポーツ少年団の指導者について、資質・指導力が団員に大きな影響を与えるため、その向上が不可欠と考えますが、指導者教育の現状と今後の取り組みについて伺う。

市長 技術指導面の充実と、安全で効率的な指導体制の確立や、ス

ポーツ少年団の理念に基づいた活動の推進、体罰、ハラスメントのない環境づくりが重要なことから、毎年、研修会を実施している。また、大仙市独自のルールを導入しながら、指導者の資質向上、適切な団の運営に努めるよう支援している。今後は、引き続き研修会の開催や活動チラシの配布を継続するとともに、活動場所となっている施設へ活動啓発ポスターを掲示するなど、より一層、活動の健全化及び体罰、ハラスメントのない環境づくりに努めていく。

質問 一流プレーヤーのプレイを観戦する機会の提供について伺う。

市長 市ではトップアスリートとの交流を通して、子供たちの夢や志を育む機会とする心のプロジェクト「夢の教室」を実施し、平成25年度では小中学生を対象に6回開催しており、平成26年度においても、こうした機会の拡大を検討している。また、プロ公式戦や実業団選手権など、本市において開催可能な大会があれば、積極的に誘致を推進したいと考えている。



市民クラブ 議員
佐藤隆盛

Q 河川の安全は
どの程度確保されているか

A 河床整備等を行い
安全確保に努める

質問 市内を貫通する各河川の安全はどの程度確保されているか。現状認識を問う。

市長 市内には、国管理2河川、県管理38河川、市管理95河川あり、国及び県管理河川については、河川改修計画に基づく整備と、河床整備を含め河川維持を行い、洪水時に備えた安全対策を講じている。川口川については、延長が16,800mであり、整備済み区間が8,500m、未整備区間が6,800m、整備の必要がない区間が1,500mと伺っており、未整備区間の整備促進については、他の河川整備と同様に要望していく。市管理河川について、現時点での改修計画はないが、河床整備等を行い、洪水時における安全確保に努めて河川維持を実施している。

質問 「大仙市地域防災計画」水害予防計画の各河川の水防計画について具体的に伺う。

市長 具体的な水害対応としては、国土交通省と県からの河川・気象情報の提供や水防警報などの発令に基づき、その情報を防災ネットだ

いせんなどにより各地域と職員、民間の排水担当者に通知し準備体制をとる。水害が予想される場合には、水門管理人、常設ポンプ管理人と担当職員が防災ネットだいせんなどを使用し出動の指示を出し、内水排水作業を行い、必要に応じて市内のパトールを行うなど警戒に当たる。

身体障がい者雇用について

質問 今日までハローワークとどのように雇用拡大に努めてきたのか。

市長 ハローワーク大曲では雇用未達成企業へ直接訪問を行い、経営者の理解を得るためのトライアル雇用、職場実習、助成金の活用など支援制度の周知を図っている。市では仙北地域雇用促進連絡会を通じて、状況の把握、市内事業所への周知に努めてきた。

質問 障がい者に対する市の窓口対応や連絡方法は十分な体制がとられているか。

市長 来庁時の聴覚障がい者等の方への意思疎通の向上観点から、本年度より専任の手話通訳者を雇用し、窓口の円滑な対応を実施している。

一般質問

陳情・意見書

〈陳情〉

- ◆特定秘密保護法の廃止を求めることについて 【賛成少数で不採択】
提出者 秋田市中通
秋田県平和委員会 理事長 風間幸蔵
- ◆最低賃金の改善と中小零細企業支援の拡充を求めることについて 【全会一致で趣旨採択】
提出者 秋田市中通
秋田県春闘共闘懇談会 代表委員 中村秀也他1名
- ◆特定秘密保護法の廃止を求めることについて 【賛成少数で不採択】
提出者 秋田市中通
秋田県春闘共闘懇談会 代表委員 中村秀也他1名
- ◆地方自治体の臨時・非常勤職員の処遇改善と雇用安定のための法改正に係る意見書採択について 【全会一致で採択】
提出者 秋田市山王
秋田県教職員組合 執行委員長 山縣 稔他1名

〈意見書〉

○地方自治体の臨時・非常勤職員の処遇改善と雇用安定のための法改正に係る意見書
※上記意見書は、大仙市議会常任委員会の提案により議決し、総務大臣はじめ各関係大臣に提出しました。

第1回臨時議会

平成26年第1回臨時議会が1月31日に1日間の会期で招集され、補正予算(案)1件が上程され、原案可決されました。

議案の内容は次の通りです。

▼平成25年度大仙市一般会計補正予算(第6号)
(全会一致で原案可決)

今冬の豪雪に伴う市道の除排雪に関する経費の補正で、歳入歳出予算の総額にそれぞれ4億円を追加し、補正後の予算総額を498億4,221万7千円とするもの。

また、債務負担行為の補正については、雪解け後速やかに道路損傷箇所を補修工事を実施するため、道路維持管理費を追加するもの。

これにより、除雪対策費の予算計上累計額は13億1,843万円となる。

◆委員会審査のあらまし◆

総務民生常任委員会

条例5件、予算11件、陳情3件を審査しました。

消防団員の確保は

【問】若者層の欠員が目立ち始めているが、団員確保策をどう考えているのか。

【答】法律改正により併任でさる大仙市職員も含め、いろいろな職場に呼びかけて団員確保に努めたい。また、将来のために中高生に消防団活動を理解してもらう事も教育委員会と協議し進めたい。更

公益通報条例制定

【問】公益通報委員会を市長が設置することになるが、市に不都合な通報も想定される。第三者で公益通報委員会を設置するべきと思うがどうか。

【答】公益通報委員会委員は市長が委嘱することになるが、公平性が保てるよう市職員のみでなく、外部委員も委嘱するよう進めたい。

防災ネットだいでんの活用周知は

【問】携帯電話やパソコンで災害情報を得るには、どのような手続きが必要か。また、高齢者も使える方法はないのか。

【答】携帯電話やパソコンを持っていれば情報は受けられる。自主防災組織設立時にパンフレット配付や使い方の説明をしてきている。今後、高



▲大会での大仙市消防団員

齢者の皆さんが携帯電話で受信できるよう自治会総会等で操作説明することも検討したい。

中学生の医療費無料化は

【問】昨年の決算特別委員会で、中学生の外來通院費助成を要望したが、現状はどうなっているのか。

【答】平成24年8月から中学生の入院には医療費を無料としているが、今後の実績を見ながら検討したいので、時間をいただきたい。

企画産業常任委員会

条例3件、補正予算2件、当初予算1件、陳情1件を審査しました。

大仙市市民活動拠点センター条例の制定について

【問】オープンスペースの使用料金設定は、誰でも入って利用する事が出来ないのではないか。

【答】使用料は講座やイベントを開催した際に発生する使用料で、普段は診察やバスの待ち時間など、市民が自由に過ごせる場である。

鳥獣被害対策条例の制定について

【問】この条例によって各地域にある猟友会が交流や駆除が出来るようになるのか。

【答】7つある地方猟友会が今後は地域をまたいだ駆除もできる。特にクマの捕獲においては、技術の優れた地域の猟友会からの技術提供が見込まれる。

3月補正予算案

【問】がんばる集落活性化事業が今年度、申請する集落が少なかったが、今後の事業周知における対応はどうするか。

【答】広報での呼びかけと

もに各地域連絡協議会や、自治会支援補助金の手続きの際も会長等に呼びかけを行う。

【問】降雪による被害を受けたパイプハウスへの補助事業と農業共済組合の共済制度との関連はどうなっているのか。

【答】農業共済組合からの補助額と県、市の補助金の合計額が対象額を超える場合は、補助金を減額して交付する。

むすびサポート事業

【問】イベントに応募も参加もできない方への方策、大仙結婚を支援する会の活動に対する方策は考えられないか。また、少子化対策支援の予算が少ないのではないか。

【答】これまで3組のカップルが誕生し、今後は出会の場の提供に加え結婚意欲を高めることや、結婚を支援する会の活動、若い人がいる事業所を回り、事業のPRに努めたい。



▲大曲厚生医療センターと繋がる大仙市民活動拠点センター

園芸メガ団地整備事業

【問】当初予定された132棟のハウスから104棟に変更後の経営

計画の試算はどうなっているのか。

【答】 日当たりを良くすることや管理道路の確保、冬場の降雪に対応したもので、棟数は減るがハウスが長くなることから目標の生産額に変わりはない。

教育福祉常任委員会

条例案7件、単行案4件、補正予算案5件、当初予算案6件を審査しました。

学校施設管理費について

【問】 小・中学校の校舎等、躯体そのもの手直しが必要などころはあるか。

【答】 耐震化は平成23年度に終了し、手直しは無い。建築後40年になると長寿命化の対象になり、全70棟のうち、対象は12棟あるが、年次計画で補修していく。

市の奨学資金について

【問】 高校生の定員減分を定員外の大学生に貸与できなかったのか。

【答】 その点は考えたが、枠外の大学生で同じ申請状況の方が数名おり、審議会に諮り

規定通りの貸与と決定した。

大仙ふくし会の財政支援について

【問】 財務内容の良い法人に補助金は必要か。

【答】 10年間財政支援という協定に基づき行っている。派遣職員の人件費の一部補填であり、派遣職員がゼロになる平成29年度で補助は終了する。

地域中核病院連携施設支援事業費について

【問】 J A 秋田おぼこに5年間で計5千万円補助するところがあるか。

【答】 病院からの退院者受け入れで、常に4床分の空きを確保することを、連携基盤が確立するまでの5年間継続するたため支援する。

学校給食事業費について

【問】 安全管理のレベルが上がっている部分は。

【答】 土日、祝日も

職員及び家族の健康チェック、作業前の手洗いの徹底、使い捨て手袋の利用、作業ごとのエプロンの色変えのほか、所長、参事による管理体制の見直しを図った。

スキー場事業会計について

【問】 指定管理料は、リフトの数、ゲレンデの長さにより違うのか。

【答】 過去3年間の経費と収入の差を指定管理料としている。数や長さは関係しない。

◀地域中核病院連携施設



建設水道常任委員会

条例案3件、単行案6件、予算案17件を審査しました。

基準外繰入はどれくらいか

【問】 特別会計への基準外繰入はどれくらいで、見直しによって減っていくのか。

【答】 公共下水道と特定環境保全公共下水道の基準外は20%、農業集落排水では15%である。下水道区域の見直しによって、事業費が下がることに伴い、繰入額も減っていく。

区画整理事業について

【問】 住宅を建てない権利者がいるようだが、住宅地が虫食い状態にならないか懸念されるが、どうか。

【答】 建てない方の土地は、商店等を建てる方から一緒に利用していただくよう配慮する。

道路関係予算について

【問】 道路改良予算の残金は、組み換えをし

て、市民の要望にできるだけ応えるように使っていただきたいが、どうか。

【答】 早ければ9月に組み換えをして、道路維持補修等に充てたい。

市営住宅の建て替えについて

【問】 高齢者世帯が多い西仙北地域、天神前住宅は、将来、若い方々も暮らせるようなものなのか。

【答】 バリアフリー対応の設計としたい。誰でも使いやすいということで、将来若い方にも対応可能である。



▲土地の引き渡しが始まった大花町地区

市民の声

協和婦人会は平成7年度から研修として、議会傍聴を実施している。議会とは、市民生活に一番近い事柄の話し合いだと感じ、「生活」政治を会員一同実感するようになった。「雪対策」を始め、毎日の生活に悩んでいる「交通問題」、「地場産問題」、「エネルギー問題」、給食や子ども手当の「教育問題」、国内外の難問題をかかえ、財政難をどう克服していくか、具体的な質問をする議員。それに対し、行政側の丁寧な答弁に「なるほど」とうなずきながら身を乗り出している会員の姿があった。行政側、議員側共に緊張した議場の雰囲気がとても気持ちよかった。議員さんの方の日頃の働き、市長さんの心配り、行政の方々の目に見えないところでの働きに、「ご苦労さん、ありがとう」を言いたい。また、傍聴席の前にテレビがあり、質問、答弁に立つ姿が、表情まで分かり、ありがたかった。今後も市政に関心を持ち、進歩する会にしたいと話合った。

大仙市協和婦人会一同

3月4日・5日、初めて一般質問を傍聴しました。質疑の内容に関しては市議会だよりで知る事が出来ますが、実際に足を運ぶことで議会独特の雰囲気を感じることができました。また、改めてこの議会が我々市民の生活に直結していると感じ、大仙市の現状や動向についての取り組みを知る良いきっかけになりました。

ところで、昨年9月に市議会議員選挙が行われましたが、その投票率は減少傾向にあるようです。その一因として若い世代の選挙離れがあげられると思います。その理由として、市政に興味がない、市の取り組みがよくわからない等が考えられるため、まずは大仙市について知ってもらう事が必要だと感じます。そのためにホームページや広報等での発信も大切ですが、より受動的に情報を収集できるLINEなどの活用も面白いと考えます。これらを通して情報を収集し、大仙市について知り、関心を持つ事で投票率の上昇に繋がると思っています。市について知るといふ事は市民として当然の事であり、今後、市を担っていく若い世代にとってはより重要な事だと考えます。

今回は貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

大仙市20代男性

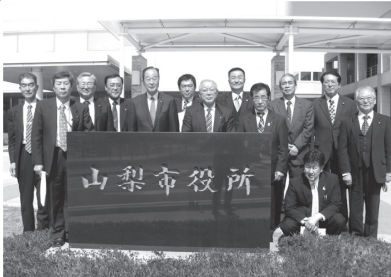
会派行政視察報告

◆大地の会・だいせんの会・公明党会派合同行政視察

平成26年3月17日～19日、山梨県山梨市及び農林水産省（東京都）へ両会派合同による行政視察を行いました。

山梨市では「空き家バンク制度」について学びました。当市にも「解体」に主眼をおいた「空き家条例」が施行されており、山梨市の制度は「活用」に主眼をおいたもので、増え続ける空き家対策として「活用」の視点からも取り組む必要を感じました。

農林水産省では秋田県出身の桜庭大臣官房審議官のご講演のほか、新た



▲山梨市役所前にて

に始まる農業政策について説明を受けました。基幹である農業発展のため、安定した農業経営基盤のもと付加価値を付けた農作物の販売が必要であると感じました。

◆新政会・市民クラブ・公明党会派合同行政視察
平成25年12月18日～20日、新潟県十日町市、長岡市へ行政視察に行ってきました。



▲「アオーレ長岡」にて

十日町市は、市民との共同の除雪体制が整っていて、冬期集落保安員の設置、集落安心づくり会への補助、要援護世帯除雪援助事業などを実施し、日常の見守りも含め、市民が安心して暮らせる施策を行っていました。

長岡市の「アオーレ長岡」では、市役所をま

ちなかへ移転し、窓口業務の延長やワンストップサービスを実行。また、ホール、シアターを併設し、長岡花火の上映など、市民による賑わいの創出がされていく好感が持てました。

◆だいせんの会行政視察
平成26年3月26日～27日、国会及び防衛省（東京都）へ行政視察に行ってきました。

国会の国土交通委員会を傍聴し、秋田県議員の質問を目の前で傍聴でき、大変、勉強になりました。今後の議員活動に生かしていきたいと感じました。防衛省視察では、見学者が多く驚きました。資料館では貴重な歴史的資料を見ることができ、改めて市民生活の安全と安心を真剣に考える良い機会となりました。



▲防衛省前にて

議会のうごき

9日	議会報編集委員会 中学生議会
10日	大分県別府市議会公明党行政視察来庁
20日	議会報編集委員会
21日	島根県益田市議会総務文教委員会行政視察来庁
22日	山口県下関市議会会派志誠会行政視察来庁
23日	総務民生常任委員会「所管事務調査」
27日	企画産業常任委員会「所管事務調査」
31日	議会運営委員会・議会改革推進会議 第1回臨時会
6日	議員全員協議会・議員説明会・会派代表者会議
10日	教育福祉常任委員会「所管事務調査」
13日	建設水道常任委員会「所管事務調査」
17日	東京都立川市議会行政視察来庁
20日	会派代表者会議
24日	議員全員協議会（当初予算説明会）
4日	議員全員協議会（当初予算説明会）
5日	議会運営委員会
6日	総務民生常任委員会「所管事務調査」
7日	議会改革推進会議
10日	各常任委員会審査
12日	各常任委員会審査
14日	各常任委員会審査
17日	各常任委員会審査
19日	各常任委員会審査
24日	各常任委員会審査
26日	各常任委員会審査

6月定例会日程のお知らせ

- 6月 2日（月）本会議第1日（市政報告・議案上程等）
 - 10日（火）本会議第2日（一般質問）**対面式一問一答方式**
 - 11日（水）本会議第3日（一般質問、議案質疑、委員会付託）
 - 12日（木）、13日（金）常任委員会審査
 - 18日（水）本会議第4日（委員長報告、質疑、討論、表決）
- ※ 現時点での予定であり、変更される場合があります。
変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。



皆様の傍聴を
お待ちしております。

用語の解説

一般質問

「一般質問」とは議員が市政全般に関して、執行機関（市長や行政委員会）にその執行や将来の方針、住民生活に密接に係る事項等について質問をすることをいいます。また、方針等についての所信や疑問をただすこと、あるいは説明や報告を求める事をいいます。

一般質問は定例会ごとに行われて臨時会では行いません。議員は、質問の通告を提出し質問時間の合計は30分以内と決められています。

「対面式一問一答方式」

大仙市では、演壇と議席の間に質問席を設け、市長や関係部長を向いて（対面して）質問します。議員からの一般質問に対し、その都度一答弁となるため、傍聴者に分かり易い方式です。

反対に「一括質問一括答弁」方式は、まとめた形での質問と答弁となるため、傍聴者にとっては非常に分かりづらいものとなります。



議長交際費（1月1日～3月31日）

摘要	件数	金額
弔慰	件	円
慶祝	17件	123,600円
協賛	件	円
計	17件	123,600円
25年度合計	78件	673,455円

大仙市議会 市政懇談会を開催

市議会では、市政の諸課題に柔軟に対応するため、市政全般にわたって、市民と自由に意見を交換する、市政懇談会を、次の日程で開催します。

市民の皆さんのご参加をお待ちしています。

「より開かれた議会を目指し」

6月23日(月)～6月27日(金)

開催日	場 所	時 間
6月23日(月)	南外コミュニティーセンター(南外字下袋218)	午前10時～
	サンクレスト大曲(大曲日の出町1丁目23-3)	午後1時30分～
6月24日(火)	内小友公民館(内小友字仙北屋68-2)	午前10時～
	角間川公民館(角間川町字四上町1)	午後1時30分～
6月25日(水)	神岡福祉センター(神宮寺字蓮沼17)	午前10時～
	中仙農村環境改善センター(北長野字茶畑141)	午後1時30分～
6月26日(木)	西仙北支所(刈和野字本町5)	午前10時～
	協和支所(協和境字野田4)	午後1時30分～
6月27日(金)	太田文化プラザ(太田町太田字新田田尻3-4)	午前10時～
	仙北支所(高梨字田茂木10)	午後1時30分～



広く市民の皆様のご意見をお聞かせください。

【問い合わせ先】

議会事務局

TEL63-1111(内線304)

※日程については、変更になる場合があります。変更についてはチラシ等でお知らせします。

大仙市の歴史巡り (神岡地域)



神宮寺

まちの中央あたりに宝蔵寺がある。宝蔵寺は、富樫氏が加賀(石川県)から移住し、1354年に菩提寺の宝蔵寺を加賀から移し、1382年に伽藍を完成させた古刹。寺は2度の火災で過去帳や諸記録は残っていない。境内には聳えた「槻の木」(ケヤキ)がある。この木は秋田県内で最大級の巨木で、樹齢500年を越えると伝えられている。その間の歴史を見てきた。春、天空いっぱい葉が黄色に萌え鬱金の光が境内に満ちる。ケヤキの近くに「天保荒歳供養塔」がある。天保の飢饉で死んだ夥しい人々の供養塔である。食糧自給率40%の現在の危うさを考えさせて止まない史跡である。

佐々木昭元氏 記

大仙市の花巡り



雪割草

めっきり春めいてきたこの三月下旬、秋田県立農業科学館で雪割草の展示会が行われ、「水田にはまだ雪が残り、農作業ができないから見に来た」と言う農家の方々が多く訪れていました。

会場には、色とりどりの可憐な花をつけた100鉢以上の雪割草が展示され、見物客は小さな春を満喫しているようでした。

また、この雪割草の展示会を企画している秋田愛蘭会・事務局長の佐藤吉太郎氏は、6月に中仙地域の道の駅でも山野草展を開催する予定となっているので、多くの方々から見に来てほしいと言っていました。

編集後記

◇近頃、涙脆くなってきたように感じる。年齢のせいでもあるが、卒業式に出席し、旅立ちを迎えた彼らに大きな感動を覚える、遅しいのである。

次代の大仙市を担うこの若者達の為にも、豊かな地域づくりが急務である。議会人として身を引き締め、建設的提案を発していきたい。

◇あの大雪も春の息吹の訪れとともに消え、桜の季節に移行する行楽の時期となった。農家は、一年で最も繁忙期を迎える。農政の転換が提唱され、不安を抱えながらのスタートとなるが、豊作を願うのは至極当然の事であり、天候に恵まれ、良い出来秋であつて欲しいものである。

◇春4月は、入学式の季節でもある。ピカピカの元氣溢れる小学一年生、真新しい制服に包まれ凛々しい中学一年生、共に躍動感一杯である。勉学と仲間づくりに努め、謳歌して欲しい。

入学式では、涙腺が緩まぬよう少し緊張して列席しなければならぬと思っている。

◇議会報編集委員は、初めての一年生である。書く事を苦手とする私にとって、重荷である。編集委員の皆様の手まといにならぬ様、努力したい。

議会報は、議会の内容説明の責任と、市民と対話できる良好な関係になる様歩みたい。

編集委員 本間輝男